

教育目標 『地球的視野に立ち 志高く しなやかに 逞しく 未来を生き抜く児童の育成』
—— ウェルビーイングな中番小学校 ——

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について

学力調査は全教科で「概ね良好」な結果 理科では特に高い学びの定着が見られました。

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、令和7年4月17日に、小学6年生を対象とした全国学力・学習状況調査が実施されました。国語・算数・理科の学力に加え、学習・生活習慣に関する調査も行われ、その分析結果がまとまりました。本校では全教員で分析や考察を行い、児童の良い面や課題について共通理解を深めました。

児童の学力をさらに高めるためには、学校だけで取り組むのではなく、家庭や地域の皆様と課題を共有し、力を合わせる事が大切です。引き続き、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

【質問紙調査結果から】



《 基本的な生活習慣 》			
質問番号	質 問	R7	全国比
1	朝食を毎日食べていますか	100.0	+6.3
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	87.5	+5.6
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.8	+2.8

質問番号1では、プラス評価（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」）が100%でした。朝食の大切さを理解し、取り組んでいることが分かります。学習への集中や体調管理にも良い傾向であることが伺えます。

同様に質問番号2・3でも、本校の児童は約90%程度がプラス評価でした。「規則正しい生活」に関して児童の意識や実践力が高いのは、日頃からご家庭でご協力いただいている成果であると考えます。

《 非認知能力 》			
質問番号	質 問	R7	全国比
7	将来の夢や目標をもっていますか	93.8	+10.7
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	+3.6

質問番号7・11では、肯定的な回答が顕著でした。全員が「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答しました。人に優しく関わり、落ち着いた生活を送っていることが、安定した学力を身につけている要因の一つであると考えます。今後もキャリア教育や道徳教育、体験的な活動をさらに充実させ、児童が夢や目標をもって生活できるようにします。

	《地域とのかかわり》		
質問番号	質 問	R7	全国比
27	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	93.8	+12.5

質問番号 27 では、全国平均を大きく上回りました。地域の方々に支えられている経験は、児童の責任感や社会性の形成に大きな役割を果たしています。今後も地域とのつながりを深める機会を確保するとともに引き続き地域におけるご支援とご協力を賜りたく思います。

	《自己肯定感》		
質問番号	質 問	R7	全国比
5	自分には、よいところがあると思いますか	75.1	-11.8
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.8	+0.8

質問番号 5 では、プラス評価が 75.1% (全国平均 86.9%) でした。マイナス評価(「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」)の割合を真摯に受け止め、道徳の授業で自分をみつめる時間を多く設け、学級や学校で自尊感情を高める取組を進めます。また、普段から教師が積極的に児童の良いところを褒め、自信につなげられるような機会を増やします。

	《先生との関わり》		
質問番号	質 問	R7	全国比
6	先生は、あなたのよいところを褒めてくれていると思いますか	100.0	+7.8
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	56.3	-14.3

質問番号 6、質問番号 10 では、「先生はよいところを認めてくれている」と感じる児童が多い一方で、「困りごとを相談できる」と感じる児童は少ないことから、肯定的な関わりはできているものの、悩みに寄り添う関係づくりが十分ではないと考えられます。今後は、日常的な声かけや個別面談の充実、安心して話せる時間と雰囲気づくりを意図的に行います。また、学級活動や道徳での心の教育を通して、相談することの大切さを伝え、信頼関係の深化を図ります。

	《読書習慣》		
質問番号	質 問	R7	全国比
21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(1 時間以上)	12.6	-2.6
23	新聞を読んでいますか(週に 1～3 回程度読んでいる)	6.3	-4.2

質問番号 21、質問番号 23 では、家庭での読書時間や新聞を読む割合が全国平均を下回っていることから、日常生活で活字に触れる機会が十分に確保されていないと考えられます。今後は、「読書タイム」など学校内での読書習慣の定着を図るとともに、家庭にも読書の楽しさを伝える取組を行います。児童会によるおすすめ本の紹介や親子読書の推進などを通して、家庭と連携した「読む文化」の醸成を進めます。



【国語・算数・理科の学力調査結果から】

国語



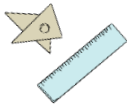
（考察）

- 条件に合わせて自分の考えが伝わるように書き表す力がついてきています。
- 「おの検定」や継続的な家庭学習の取組を通じて、漢字の読み書きはよく定着しています。
一方で、課題も見られます。
- △複数の資料を扱う問題では、要旨をとらえることに課題が見られます。資料や条件などの情報量が多く、整理が難しかったものと考えられます。
- △会話文やちらしなど身近な文章は理解しやすいのですが、説明文のように非日常的な内容になると、語彙が難しくなり、文章量も増えるため、要旨を把握することが難しい様子が見られます。

（今後の対策）

- ※要約する力を身につけられるように、短文(5分程度で取り組めるもの)から読み取る練習を取り入れます。
- ※目的に応じて、文章と図・表・グラフ・写真などを結び付け、その中から必要な情報を読み取る学習を取り入れます。
- ※活字に親しみ、読解力を高めるために、読書の時間を大切にします。
- ※語彙力を豊かにするために、音読や辞書引き学習を継続します。

算数



（考察）

- 「おの検定」や個別支援体制の整備により、分数の計算や角度を求めるなど、基礎的な力は身についています。
- 数直線やはかりの目盛りを読むなどの基本が理解できています。
一方で、課題も見られます。
- △問題文を読み、立式に必要な情報やデータを選択し、解き方の見通しをもつことに課題が見られました。
- △計算の方法は理解していても、その理由を自分の言葉で説明することが難しい様子が見られます。

（今後の対策）

- ※問題文に線を引いたり、考えをメモしたりして、思考の跡を残せるようにします。
- ※単位を意識して、問題に出てくる数を丁寧におさえます。
- ※式や図を使って相手に説明する機会を確保し、説明するときの話し方に慣れるようにします。
- ※生活と結び付けて量感を養うために、授業の中で実際に測定する活動を取り入れます。また、算数以外の教科や日常生活の中でも活用できるような問題に取り組みます。

理科



（考察）

- 全体的に正答率が高く、基本的な知識理解については概ね達成できています。
- 電気回路や顕微鏡など、一人一人が具体的に操作・実験した内容については、正答率も良好です。
一方で、課題も見られます。
- △調べる事象の実験では、条件を整えることや金属の基本的性質の理解に課題が見られました。
- △教科書以外の文章や資料の内容を読み取る力に課題が見られました。

（今後の対策）

- ※観察・実験による課題解決では、一人一人が具体物にふれ、器具を操作することを今後も積み重ねます。
- ※実験の手順や条件整備、結果からの考察を児童が図表に表し、短文にまとめることに時間をかけます。
- ※中番小学校の豊かな自然環境や、一人一人が利用できる観察器具を活用しながら、科学的な見方や考え方を育てるとともに、豊かな人間性の育成にもつなげます。